1. 目標都市像

つちうら恋物語~寄り添い合うまち〜

班員：メルリーニ愛乃(班長)・江端杏奈（副班長）・芦田佳樹・高木力貴也

TA：秋保佳祐

　土浦市にとって市民が住み続けてくれることが幸せであり、市民にとっては市が魅力的になることで市に惹かれ住み続けたいとなるのでないかと考えた。そこで、これからも幸せに付き合い続けられる恋人のように寄り添うあう相思相愛な関係を目指す。土浦が市民にとっての魅力を創出し、市民が土浦を愛し地域に寄り添いたくなるまちを目標都市像として掲げる。しかし、現在土浦市は様々な施策を掲げ、アプローチしているにもかかわらず市民は市に対して満足していない。市民の意見を取り入れたまちづくりをして欲しい、まちづくり参加機会が少ないという市民側の意見（ヒアリング調査より）と市民にはもっと主体的に都市づくりに関わってほしいという土浦市側の意見（土浦市マスタープランより）を尊重し、まちづくりに市民が関わり、双方から歩み寄ることによってよい関係が築けるのではないかと考えた。

以下は目標都市像に到達するための段階である。

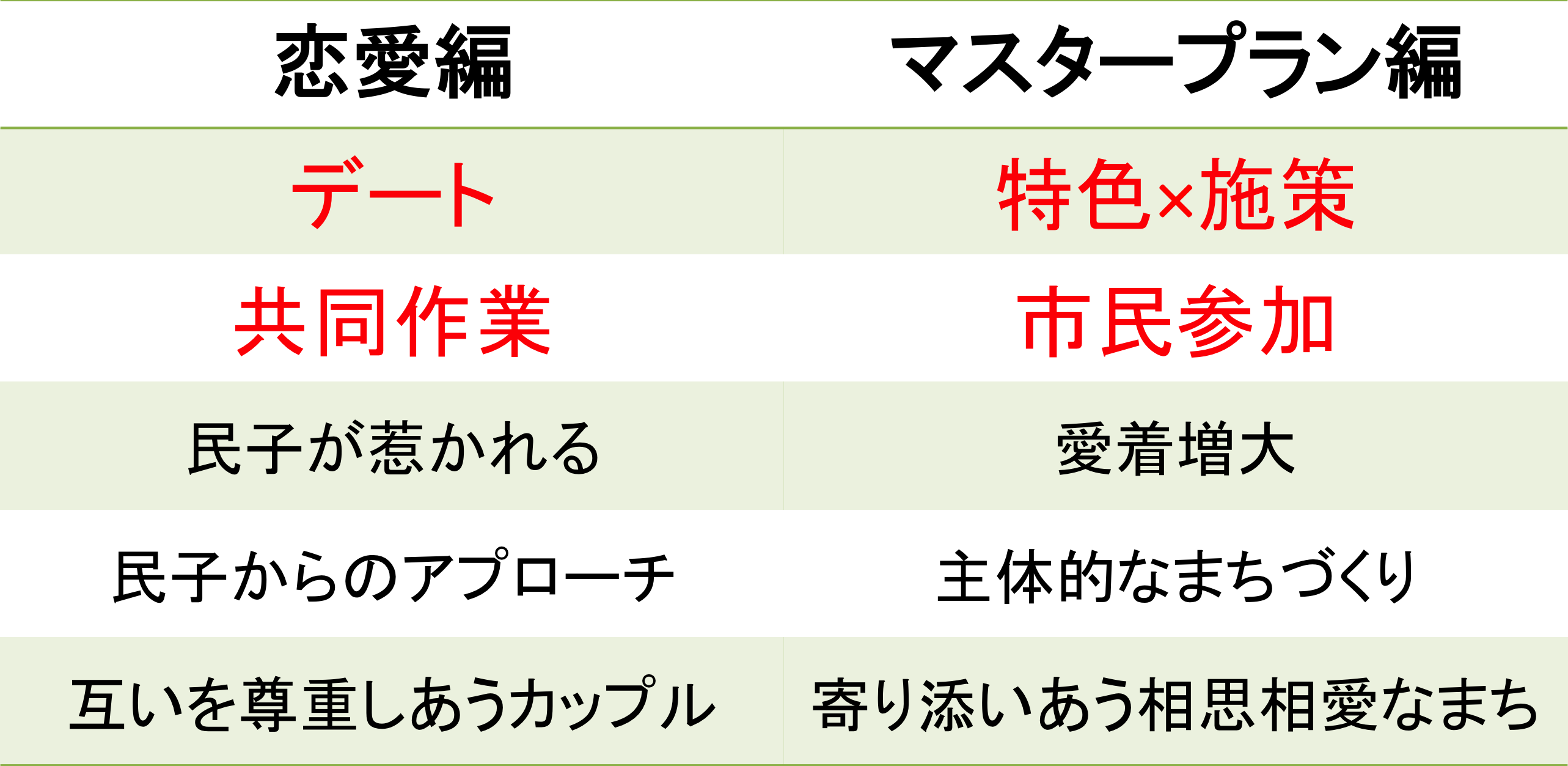
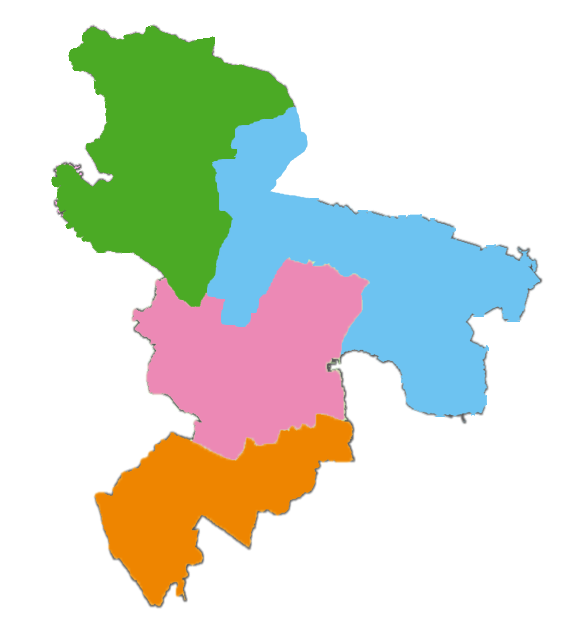


　　　　　　　　　図1:目標達成段階図

「みどり」



「いきいき」

「ふれあい」

「すこやか」

図2：デートプラン分け

上記はそれぞれの地区の特色を生かしたデートプランである。

2.1「みどり」のデートプラン（新治地区対象）

エリア分析

　このエリアは耕作地が豊富にあり、土浦市内一の農業地区である。

図3：年齢別農業後継者数

農業後継者は平成12年から平成17年にかけて減少している。新治地区は土浦のなかでも農業が盛んに行われている。

施策

このエリアでは農業を活かして「情報が行き交う発信するまち」を目指す。

1. マーケット×市民〜交流あるまちづくり〜

あづばるマーケット・あづばる農園

候補地：旧新治庁舎跡地

対象者：新治地区の住民、土浦市内の農家

概要・目的：茨城県は全国の中でも有数の農業県であり、農業産出額は全国二位を誇っている。その県全体の農業の魅力にふれ、農業に興味を持つ人を増やす。マーケットは茨城県内の農家による青果市場である。土浦市内の農家は優遇し、休日にはイベントを開催する。マーケットに参加する市民同士で様々な情報交換をすることを目的とする。さらに、マーケットに参加している市内の農園を対象としたあづばる農園に参加することで農業を身近に感じてもらうことが出来る。

1. 料理×市民〜ふれあい拠点づくり〜

つちパッド祭

候補地：旧新治庁舎前　駐車場/空き地

対象者：市内外の住民、茨城県内の農家

概要・目的：茨城県産の農産物を使った料理祭を提案。料理を通じて、土浦農業を様々な人に発信することで土浦農業を広めていく。

イベントへの参加方法としては以下の３つがある。

1. 創作料理を屋台で提供（土浦農業を発信）
2. 創作料理をコンテストに出品（土浦農業を発信）
3. 屋台を食べ歩く（土浦農業に触れる）

地域住民が集まって農業以外の情報交換の場となることも期待する。

2.2「いきいき」デートプラン（おおつ野地区対象）

エリア分析

このエリアは今年度3月に土浦協同病院が移転、新規商業施設も続々とオープンしているあたらしい住宅地区である。現在おおつ野ヒルズには30代、40代の若い子育て世代が多く住んでいる。２、30年後子供が巣立ち一気に高齢化してしまうのではないかと考えた。

図4：平成28年度おおつ野人口分布

施策

このエリアでは次世代が住みたいと思うような「次世代につなぐまち」を目指す。

①公園利用×市民〜つくるまちづくり〜

　僕らの公園まちづくり

候補地：樫の木公園

対象者：小、中学生

概要・目的：おおつ野には現在、10歳未満や10代の子供が多く、その子供をターゲットにして次世代が今後おおつ野に住み続けることを目標にする。小中学生を対象にワークショップを開催する。子供たちによって公園をどのような場にしたいか、自分たちで話し合い、実際に公園をつくることを経験する。自分たちの手で公園をつくることで、その公園に対する愛着がわき、おおつ野自体に愛着がわくのではないかと考えた。また、自分たちでつくった公園を自らで維持管理することにより、地域の住民が顔を合わせる機会を増やすことになり地域間交流が生まれるのではないかと考えた。維持管理を住民が行うことにより、公共事業費の削減も期待できる。

②入院患者×市民〜つなぐまちづくり〜

表1：入院中や退院後に困ったこと

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1 | 体力が落ちた | 33.2％ |
| 2 | 暇だった・やることがなかった | 33.0％ |
| 3 | お風呂に毎日入れなかった | 27.0％ |
| 4 | 食事が美味しくなかった | 22.0％ |
| 5 | 仕事で迷惑をかけた | 17.6％ |

ライフネット生命　入院に関する調査2014より

候補地：おおつ野地区内住宅地

対象者：地域住民、土浦協同病院入院患者

概要・目的：表1は入院中に困ったことに対するアンケートである。入院中、体力が落ちた、暇だった・やることがなかったという意見が目立つ。土浦協同病院において入院されている方も同じことを感じている人がいるのではないかと考え、そういった人々もまきこんでまちづくりを行うことを考えた。そこで、入院患者と地域住民による散歩会を提案する。平日の日中おおつ野を歩くと人気が少なく、寂しい印象であった。日中入院されている方に住宅地周辺を歩いてもらうことで防犯面でも安心が出来、入院患者も交えながら市民同士が交流する場をつくることを目的とする。

2.3「ふれあい」デートプラン（中心市街地対象）

エリア分析

　このエリアは土浦駅前の中心市街地とその周辺地域である。この地域には商店街が多く存在している他、ショッピングモールである「モール５０５」があり、豊富な商業施設が特徴としてあげられる。また、その周囲には多くの空き地、駐車場が混在している（図5）。



図5：商店街周辺の駐車場・空き地

施策

　このエリアでは商業という人が賑わうポテンシャルを「出会いの広がるまち」を目指す。

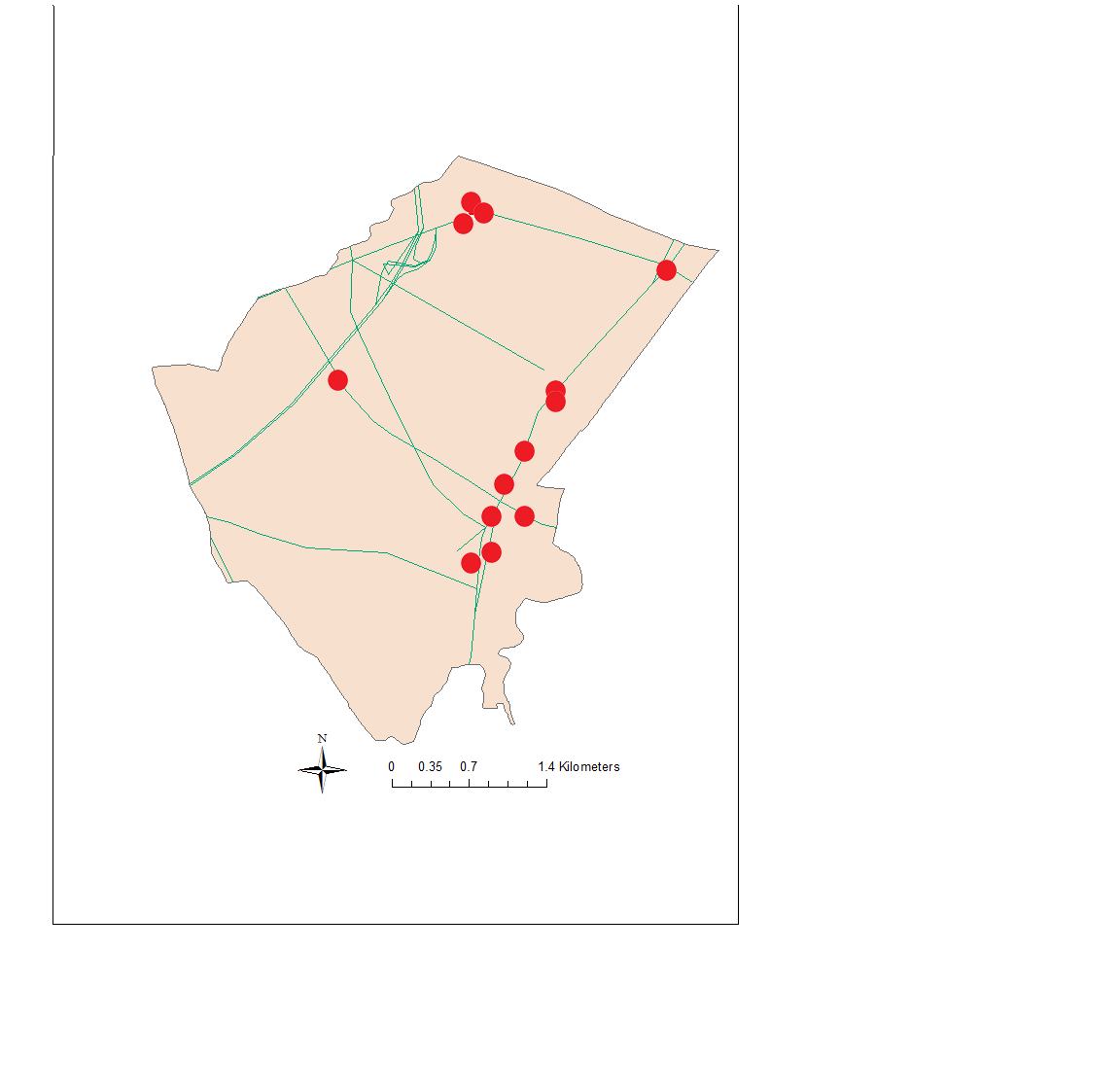
1. 空き地利用×市民〜ふれあい拠点づくり〜

候補地：商店街付近のリパーク

対象者：学生・親子

概要・目的：中心市街地の多くの店舗はシャッターを下ろし年間販売額は年々減少している。原因の１つとして賑わい拠点が失われていることや周辺の人の集まりにくい土地利用があげられる。そこで市民協力のもと芝を貼り、原っぱにし、自習や読書可能な施設を併設する（図6）。市民を自らまちづくりに参加できる機会を設けることによって愛着や当事者意識を高める。また屋外で親子のふれあいイベントをすることによってエリア全体ににぎわいを与える。賑わいが目に見えることによって自然と人が増えるのではないかと考えた。



図6：ふれあい拠点となるコミュニティエリア

1. つちコン×市民〜にぎわいまちづくり〜



図7：つちコンイメージ図

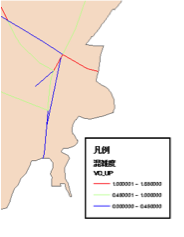
②−１　つちコン

図9：三中地区事故発生場所分布

図8：土浦市婚姻件数

開催地：駅前商店街店舗

対象地：市民在住・在学・勤務者

概要・目的：土浦市での婚姻件数は年々減少傾向にあり（図7）、土浦市の将来人口の減少にも繋がっているのではないかと考えた。土浦における婚約件数を増やしてもらいたいと考え、土浦市内在住・在学・勤務の男女限定の交流機会を設ける。商店街内の店舗を利用することによってにぎわいのきっかけをつくる。また、つちコンをきっかけに婚約した市民には商品券付与などの特典がつき、市が市民の出会いをサポートする。

②−2　つちうらオープン・シャッター計画

対象地：商店街のシャッターを閉めたままの店舗

概要・目的：中心市街地の商店街の多くの店舗がシャッターを閉めてしまっている。閉店した店舗を、希望者に期間限定で貸し出すことで、つちコンが出店をサポート。オープン後１年以内の店舗を優先的につちコン会場に利用客数及び店舗の増加をねらう

2.4「すこやか」デートプラン（荒川沖地区対象）

エリア分析

中地区内における中高生の登下校の登下校中の事故の多くが国道６号線など大通り沿いで発生している。

その原因としてあげられるのが国道６号の歩道が狭いことや、ロードサイド店が大通り沿いに多く、そこへの車の出入りが多いことが挙げられる。土浦市が行った市民満足度調査においては「通学路、歩道、ガードレールの整備や信号機の設置など安全対策」の項目の重要度が施策項目の上位3番目と高くなっている一方で満足度は平均を下回っており、低くなっている。

①子供の安全×市民〜安全な通学路づくり〜

候補地：荒川沖駅前市道

対象者：学生

概要・目的：登下校中野学生の事故を減らすために、まず事故が多発している大通りを通学路として利用しなくて済むようにしようと考えた。荒川沖駅前の国道6号と平行している市道を、通学時間帯において自動車の通行を原則禁止にし、歩行者及び自転車のみが通行出来るようにする。施策を行った後の周辺道路の混雑度を見てみると、国道６号線の混雑度が1.46から1.55に増加したため、道路の車線の拡張等渋滞の為の施策を行う必要がある。

図10：荒川沖周辺道路混雑度

②安全な通学路×市民〜花やかまちづくり〜

候補地：土浦市立乙戸小学校周辺

対象者：学生、地域住民

通学路華やか計画

地区内の住宅街を見学すると、街区内の道路が歩道のない二車線道路となっている住宅街が存在した。

小学校が近くにあり、これらの道路を通学路として利用する児童も多いと考えられるが、安全が確保出来ているとは言い難い。見学は15時頃に実施したが、歩道を歩きにくいという現状からか、周辺を歩いている人はほとんど見受けられなかった。そこで、これらの道路において児童の安全を確保するのと同時に、住民同士が関わり合い、コミュニティを形成していくために以下の施策を実施する。歩道のない2車線道路を一車線一方通行にし、歩道を確保する。また、歩道には一部花壇を設置し、住民が自由に利用できる形にする。

こうすることで花壇を手入れしながら住民同士が交流することができ、歩行者の安全も確保できる。さらに、花壇の手入れを児童の通学時間に合わせて実施することによって防犯面に置いても効果が期待できる。



before

after

図11：歩道整備前後の比較画像

3.将来像

市民が主体的にまちづくりを行うことによって土浦市、市民双方にとって以下のことが利点としてあげられるのではないかと考えた。

表2：土浦市、市民双方の利点

|  |  |
| --- | --- |
| 土浦市 | 1. 需要に沿ってまちづくりが出来る 2. 市民にずっと住み続けてもらえ、人口が安定する。 3. 公共事業費の削減 |
| 市民 | 1. 自分の意見が取り入れられる 2. 自分でまちを変えられる喜び 3. 自分の住むまちをもっと好きになる |

さらに今後、市民が参加することに加え市が市民の声に耳を傾けることによって市と市民が一緒になってまちづくりを行う、理想的な寄り添い合うまちに近づいていくことを期待する。

4.今後の方針

表3：今後の方針図

|  |
| --- |
| STEP1(満足度調査・現状調査)  　施策の課題、改善策を考える材料を得るために、現在まちづくりを行っている人へのヒアリング調査を行う。 |
| STEP2（調査を踏まえて方針を立てる）  　施策の細部（対象地区や仕組み）の検討を行う。またSTEP1で得られた情報をもとに施策の問題点の検証し、改善策を検討する。さらに施策にかかる費用及び効果をモデルを用いて算出する事によって、施策に科学的根拠を持たせる。 |
| STEP3（プランの提案）  STEP2の施策をゾーンごとにまとめ、まちづくりのプランの提案を行う。 |

1. 参考文献

1)国土数値情報http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/

2)基盤地図情報サイト - GSI HOME PAGE - 国土地理院www.gsi.go.jp/kiban

スhttp://npo-kirara.org/

3)土浦市役所ホームページ

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.html

4)土浦市都市計画マスタープラン

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page000545.html

5)第７次土浦市総合計画

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page00003html

6)土浦市耕作放棄地解消計画

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page002673.html

7)中心市街地活性化計画

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/139589328）いばらきデジタルマップ

http://www2.wagmap.jp/ibaraki/top/select.asp?dtp=28

9)土浦協同病院HP　http://www.tkgh.jp

10）ライフネット生命　入院に関する調査2014

11）厚生労働省　人口動態統計

12）農林水産省統計部「生産農業所得統計」